

企業名： オムロン株式会社

レポート名： 統合レポート 2022

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

オムロンの目指している将来の姿は、新しく生まれる社会的課題を解決して、社会価値を創出し、社会全体の豊かさと自分らしさの追求が両立する社会の実現に貢献し続けることだとしている。そのために長期ビジョン「Shaping The Future 2030(略称 SF2030)」を設定した。そこでは、事業を通じて社会価値と経済価値の創出に取り組むことで企業価値の最大化を狙っていて、そのためのサステナビリティ重要課題として「事業を通じた社会的課題の解決」、「ソーシャルニーズ創造力の最大化」、「価値創造にチャレンジする多様な人財づくり」、「脱炭素・環境負荷低減の実現」、「バリューチェーンにおける人権の尊重」を挙げている。「事業を通じた社会的課題の解決」は具体的に、尽力すべき社会問題を3つに絞り、「カーボンニュートラルの実現」「デジタル化社会の実現」「健康寿命の延伸」に力をいれると定めている。「ソーシャルニーズ創造力の最大化」はオムロンの持続的成長のために競争力となるビジネスモデルの進化と新たな事業創出の取り組みの拡大を目指す。「価値創造にチャレンジする多様な人財づくり」は、気候変動を「機会」と「リスク」の二側面で捉え、企業としての社会的責任の果たしつつ更なる競争優位性を築く。「バリューチェーンにおける人権の尊重」は国連の「ビジネスと人権に関する指導原則(UNGPs)」に沿って、自社とバリューチェーンで働く人々の人権の尊重する仕組みが形成されている状態を目指す。上記の内容は図やイラストを用いて説明されていて理解しやすいように構成されていた。以上から具体的な目標設定がされていて、どのような将来の姿を目指しているのかが理解できると言える。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

オムロンの競争優位性は社会的課題を解決することにある。オムロンは社会的課題を解決し、社会に貢献して認められることによって競争優位性を築いているのだ。企業は社会に認められることで存在でき、社会に認められない場合は大抵、不買運動などによって存続が困難になるため、競争優位性は確立できない。例えば、インドのタタグループは、大地震が発生し、帰る場所を失った人々を自社の経営しているホテルに宿泊させた。その結果復興後にそのホテルを利用してくれる人々がいたようだ。オムロンもまた、社会貢献を行っている。例えば、インドでは経済成長に伴う生活習慣の変化や高齢化の進展などにより、高血圧患者が増加し続けているものの、家庭で血圧を測る文化が根付いていないので、地元企業と提携し、家庭用血圧計の普及に努めている。こうした社会から認められるような企業活動が競争優位性を産んでいると理解できる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

オムロンの競争優位性に持続性があると理解できる。近年の企業は、利潤追求としての企業活動のみならず、CSRなどの社会への貢献も評価の対象となる。つまり、企業は投資家のために、単純に売り上げを出すだけでなく、社会貢献もせねばならないのだ。そうした事実を踏まえると、オムロンの社会的課題の解決を目指しながらビジネスチャンスを見出し、利益を上げていくという企業運営のスタイルは、投資家からの高い評価を受けることができ、安定的な投資が期待できる。また、上でも述べたように、社会的に高い評価を受けることもできるので、不買運動や社会的反感なく、安定した消費者の獲得が期待できる。また、イノベーション推進本部を設立していて、イノベーションを組織化する試みも行っていて、将来的な利潤の低下への対応も十分行えうると言える。ゆえに長期的に見ても、オムロンの競争優位性に持続性があると言える。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

私はオムロンにて、自身の人的資本の価値向上を達成できると考える。まず、上で述べたように、「価値創造にチャレンジする多様な人財づくり」を掲げるオムロンは、オムロンで働く人財全てに活躍の機会を与え、多様性のある環境を整備するとしている。イノベーションを生む際に多様性は重要だ。イノベーションは異なる知の結合によって生まれるため、多様性のある環境によって異なる知が多くなるので、促進されるはずだ。そうしたイノベーションを生みやすい創造性の高い職場に触発され、私自身も異なる知と触れ合うことができ、それに触発されたり、イノベーションを自ら生み出す体験やそれに携わることができたりするので、とても良い経験となりうる。ゆえにオムロンは私自身の創造性という点における価値向上に大きく貢献しうると言える。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

よかった点としては、具体的な事業内容が乗っていたので、抽象的なテーマであった「事業を通じて社会価値と経済価値の創出に取り組むことで企業価値の最大化を狙う」ということがはっきりと理解することができた。また、サステナビリティ重要課題をそれぞれ分割し図を用いて説明したり、各ステップごとに詳細を書いたりしていた点は分かりやすく、高く評価する。改善の余地としては、この統合レポートを短縮することだ。私自身初めてこの統合レポートというものを読んだが、長いという印象を抱いた。そのため、多少短くしたり、簡略化したものを別で用意することで、より多くの人に気軽に読んでもらえ、よりオムロンへの理解が深まるのではないかと考えた。